

市事研 会報 おおさか 翔

令和7年1月21日 発行 大阪市立小中学校事務研究会 会長 竹口 知秀 編集 同事務局

ホームページアドレス：<http://www.yl.x3l2v.smilestart.ne.jp/>

今号のトピックス

- 1 ページ ・新年のごあいさつ
- 2～3 ページ ・実務研修会報告「年度末及び年度当初における事務と引継について」
- 4～6 ページ ・滋賀県研究大会報告 ・大阪府研究大会報告
・奈良県研究大会報告 ・京都市研究大会報告 ・役員コラム



大阪市立小中学校事務研究会HP
大阪市立小中学校事務研究会HP



新年のごあいさつ



大阪市立小中学校事務研究会
会長 竹口 知秀

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、新しい年を健やかに迎えられたことと心からお慶び申し上げます。本年も旧年同様、本研究会活動への変わらぬご理解ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。今年は大阪・関西万博の開催が予定されています。日本では2005年の愛知万博以来20年ぶり、大阪では1970年以来55年ぶりに万国博覧会が開催されます。昨年12月19日に大阪市の令和7年度の予算編成過程が公開され、各所属の予算事業一覧が公表されました。教育委員会事務局の予算要求のなかには「大阪・関西万博にかかる学校園への啓発及び参加事業」が挙げられており、3億円以上の予算が計上されています。児童生徒にとって、そして大阪、日本、世界にとって実りある記念すべき博覧会となることを切に願っています。

さて、昨年12月24日に令和7年度予算等について文部科学大臣と財務大臣の大臣折衝が行われ、教員の処遇改善や教職員定数の改善等に関して合意されました。また、令和3年度から公立小学校等で段階的に実施されている通常学級の学級編成標準の引き下げについて、公立中学校等においても令和8年度から着手することが合意されました。また、政府は昨年12月27日に令和7年度予算案を閣議決定しました。文部科学省の文教関係予算においては、「質の高い公教育の再生」として、教員の学校における働き方改革の更なる加速化や学校の指導・運営体制の充実等とGIGAスクール構想の着実な推進と学校DXの加速等に向けた予算が計上されています。他にも「新しい時代の学びの実現に向けた学校施設の整備」として、教育環境の向上と老朽化対策の一体的整備や防災機能強化、学校施設等の整備の推進、D-E-S-Tの構築等に向けた予算が計上されています。これらが国会において可決された場合、学校施設や備品の整備等が必要となることが予想されるため、今後の動向を注視しておく必要があります。

学校教育を取り巻く環境の変化や課題に柔軟に対応していくためには、多角的な視点で物事を捉えるとともに、正しい情報を収集し、来るべき日に備えて事前に準備しておくことが非常に重要だと思います。市事研では、HPと会報をさらに活用し、会員の皆様の一助となる情報の発信に努めてまいります。また、今年是全国公立小中学校事務研究大会（滋賀大会）で大阪市が分科会を担当しますので、分科会に向けた活動等についても発信させていただく予定です。本年についても研究会スタッフ一丸となって研究会活動に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。最後に、会員の皆様の一層のご健勝とご多幸を心よりお祈りし新年のあいさつとさせていただきます。





実務研修会開催

「年度末及び年度当初における事務と引継について」

研修

令和6年11月22日（金）にクレオ大阪東において、年度末及び年度当初における事務や人事異動等にかかる引継を適切に行い、より円滑に業務を進められるようにすることを目的とし、実務研修会を開催しました。

年度末及び年度当初における事務においては、「公金会計」「学校徴収金」「学校給食費」「教職員給食費」等、各業務の事務処理内容について、「T o D o リスト」を基に、時系列に沿って説明を行いました。また、「各業務の事業計画は、基本的に前年度の担当者が暫定的に策定し、新年度の担当者が引き継ぎ、再度調整を行ったうえで確定する必要があること」や「暫定的な事業計画策定時についても、必要に応じて会議等を行い、計画の方向性や内容を学校全体で共通理解を図ったうえで決定し、その内容を適切に引き継ぐ必要がある」といった、引継時のポイントや各業務における留意点についても、具体的な事例を交えながら説明を行いました。

人事異動等にかかる引継については、引継書の作成やその他の標準的な引継事項について説明を行いました。また、引継に関する内容について、「このような引継をしてもらって良かった」「このよう



な引継があれば嬉しいな」等、会場の会員同士で意見交流する場を設けました。初めての異動を控えている方や何度か異動を経験している方、それぞれ経験年数が違う方の話を聞くことで、新たな発見や今後の引継時の参考になったのではないかと思います。また、意見交流の内容については、F o r m s を活用し、二次元コードから回答をしていただきました。意見交流の最後には、回答いただいた内容の一部を紹介し、会場全体で共有しました。

実務研修会では、参加者がより分かりやすく、具体的に実務のイメージができるよう、資料だけでなくパワーポイントや寸劇を会場前方に投影して説明を行う等、研修方法にも工夫を凝らしています。

これからも会員の皆様の職能形成や資質向上につながる研修会を開催していきますので、研修会開催の折には積極的なご参加をよろしくお願いいたします。なお、市事研ホームページに、実務研修会の資料やパワーポイントを掲載しています。また、今回は資料内の「T o D o リスト」についても掲載しています。資料に記載している内容に、締切日や完了日を入力できる欄を加え、タスク管理としても活用できる仕様になっています。必要に応じてご活用ください。



掲載場所

市事研ホームページ > 資料掲載ページ

※資料掲載ページの閲覧には、ユーザー名・パスワードの入力が必要です。

会費納入時の領収書（振込による納入の場合、市事研から発送している文書）に記載しておりますのでご確認ください。



意見交流 回答（一部抜粋）

このような引継をしてもらって良かった

- ・業務だけでなく、学校行事（入学式等）における事務職員の担当
- ・校内会議への参加状況
- ・事務用品を納めている倉庫の場所や、事務室や正門の鍵、倉庫の鍵等の引継
また、T e a m s 等で4月以降も連絡できる関係性を築けたことで安心した

このような引継があれば嬉しいな

- ・配慮が必要な保護者等の情報
- ・育児休業中の教職員について手当金請求等の状況（いつから1歳超か等）
- ・普段S K I P連絡掲示板で、教職員に定例で周知しているお知らせ
（各種提出締切や消耗品在庫補充等）

約 70 件の回答がありました。ご協力いただきありがとうございました。

アンケートより（一部抜粋）

- ・丁寧にまとめられていて、明日からでも取り組めそうなものも確認でき、見通しを立てて準備していける気がしたため。

（小学校・5年～10年）

- ・資料：流れを分かりやすく、的確に書かれていることや、その際に注意することが書かれているのでとても分かりやすいと感じたから。

パワーポイント：資料は活字ばかりで、どうしても理解しにくい点がありましたが、パワーポイントに絵を入れてくれることで、理解しやすくなり、実際業務をしている姿があることで、何となくこのような流れで業務を行うのだと理解を深めることができたから。

（小学校・5年未満）

- ・とても丁寧に資料、パワーポイントが作成されていました。

（中学校・21年以上）

- ・資料は細かい部分まで網羅されており勉強になりました。当日の説明も聞き取りやすく頭に入りやすかったです。

（小学校・11年～20年）

第 53 回滋賀県公立小中学校事務研究大会報告

令和6年10月31日（木）に滋賀県立男女共同参画センターにおいて、第53回滋賀県公立小中学校事務研究大会が開催されました。大会テーマ「創造しよう！教育を活かす学校事務を」サブテーマ「めざせウェルビーイング！学びの環境をデザインしてみよう」を掲げ、午前の部では全体会Ⅰ（湖北ブロック報告）、全体会Ⅱ（研究部報告）、午後の部では全体会Ⅲ（講演）、分科会といった構成で行われました。紙幅の関係上、内容の一部のみ紹介させていただきます。

全体会Ⅰでは、子どもたちを中心とした三方よし（学校事務職員よし、学校よし、地域よし）を基礎とし、学校で過ごす日常のなかで「なんとかしたい」「こうなったら良いのに」という理想を行動に移した実践事例が報告されました。どの実践事例も「学びの環境整備」につながる実践事例であり、滋賀県の学校事務職員の方々は子どもたちとの距離が近く、子どもたちに寄り添っていることがわかりました。また全体会Ⅱでは、令和7年度全国公立小中学校事務研究大会（以下、全事研大会）の年次別課題である「学びの環境整備」についてのイメージ図について、研究部から説明が行われました。令和7年度全事研大会では、このイメージ図を基に実践報告されるため、研究発表が待ち遠しく感じました。私たち大阪市も令和7年度全事研大会では分科会を担当します。「近畿は一つ」を合言葉に盛りあげていきましょう。



第 33 回大阪府公立学校事務研究大会報告

令和6年11月1日（金）にクレオ大阪東において、「学校事務をアップデート！～豊かな学びを支える学校を作ろう～」をテーマに、第33回大阪府公立学校事務研究大会が開催されました。開会行事のあと、東北大学大学院 教育学研究科の青木 栄一教授より、「働き方改革時代の学校事務職員に求められるタイムマネジメント」をテーマに記念講演が行われました。はじめに、教員勤務実態調査などの各種調査データを引用し、教員及び学校事務職員の労働時間、業務負担感についての説明がありました。教員の長時間労働、働き方改革のために学校事務職員が犠牲を払うのは本末転倒であり、学校事務職員にも働き方改革は必要であると述べられました。続いて、講師が過去に行った企業インタビュー及び海外の事例を基に、タイムマネジメントとは具体的にどういったものなのか、説明が行われました。各テーマの講義後にはWebフォームを活用し、講師と参加者間でリアルタイムに質疑応答を行うことで、参加者の実態に応じた講演となるよう工夫がされていました。最後に学校事務職員の果たす役割について言及され、学校の多忙解消について、私たちにできることは何かを考えるための、新しい発見と知識を得ることができた講演でした。

続いてパネルディスカッションとして、新潟県・三重県・愛媛県・宮崎県の四名のパネリストより、各地域で行われている共同学校事務室等での実践が紹介されました。最後に、令和7年度に開催の全事研大会PRが行われ、大会は終了しました。



第50回奈良県公立小中学校事務研究大会報告

令和6年12月12日（木）に奈良県立教育研究所において、「拓こう！明日の教育を担う学校事務を」を大会テーマに、第50回奈良県公立小中学校事務研究大会が開催されました。開会行事のあと、研究部による発表があり、令和7年度に開催される全事研大会のテーマである「学びの環境整備」に着目し、システム化・財務・学校把握の三つの視点から、報告がありました。経験年数に関係なく、「今、自分ができることは何か」を考え、「子どもたちの笑顔あふれる学校づくり」に向け、「自ら考え主体的・積極的に行動する事務職員」を、めざす事務職員像とし、専門性を発揮し教職員の負担軽減につながる提案を行うことで、学びの環境整備につながる、という考えのもと、取り組んだ実践について報告がありました。その後、グループに分かれて意見交流を行い、システム化・財務・学校把握について、それぞれの学校で取り組んでいる内容を共有しました。

最後に、大阪教育大学の田中 真秀准教授による講演が行われ、グランドデザインである「すまいる奈良2」の「ささえる」「つなぐ」「ひらく」の視点のなかから、「ひらく」に着目し、学校事務職員個人としては、「情報収集を行い、できることから実施してみること」や、学校内等の組織では、「固定概念から脱却し、専門性を活かした企画・提案を行うこと」が、事務をつかさどるうえで必要な要素になると述べられました。



令和6年度京都市立学校事務研究大会報告

令和6年12月13日（金）に京都市総合教育センターにおいて、「学びの環境整備～子どもの豊かな育ちを支援する学校づくりを目指して～」を大会テーマに令和6年度京都市立学校事務研究大会が開催されました。開会行事のあと、研究開発部より今年度の取組を中心に研究報告および活動報告がありました。はじめに、研究チームより公金業務の標準化及び活性化に向けた取組の報告がありました。事務の「標準化」により、学校事務職員や教職員の事務負担軽減を図りつつ、全市の校内事務の基盤を整え、各学校の実情に応じて学校事務職員の創意工夫を生かしながら、柔軟で効果的な財務マネジメントを行うことで、子どもたちの教育環境の整備・充実につなげていきたいという考えのもと、全市標準様式となった予算執行計画書の効果と課題の検証や、学校事務職員や教職員の異動時の困りを解消するために試行的に作成した「標準物品リスト」に関する教職員へのアンケートの実施・結果についての研究報告がありました。続いて、事務改善チームからは、研究会活動を通じて展開された業務改善のための共通様式やソフト等の更新等について、研修チームからは、財務マネジメントに関する自主研修実施についての報告が行われました。

最後に、千葉工業大学 工学部教育センターの 福嶋 尚子准教授より、「隠れ教育費から考える学校財務マネジメント～学習環境の充実と保護者負担軽減に向けて事務職員ができること～」と題して、記念講演が行われました。子どもたちが「当たり前の学校生活」を送るに当たって、保護者・教職員による私費負担「隠れ教育費」が存在していることが問題であり、また、その私費負担を見直すことで子どもの貧困問題は減らせること、そのために学校財務をつかさどる学校事務職員の視点から学校財務改善を実践し、子どもの教育を受ける権利を保障してほしいと述べられました。



～役員コラム～ 業務を円滑に進めるために

一年を締めくくる三学期を迎えました。今年度の決算や来年度に向けた準備など、業務が繁忙になるにつれて心に余裕がなくなってしまうことはありませんか。例えば、業務がスムーズに進まないことへの不安や、コミュニケーションがうまくいかないことにストレスを感じた経験がある方もいるのではないのでしょうか。

そんな時こそ、自分自身と向き合う時間を作っていきましょう！まずは自分自身の考え方の癖を知り、その癖によって生じている考え方の偏りを意識してみることから始めます。できなかったことよりもできていることに、一方向ではなく多方面に目を向けることで、意識的に物事の捉え方を変えていきます。これを心理学用語で「リフレーミング」といいます。ネガティブな事象も視点を変えることで前向きな気持ちになり、コミュニケーションを円滑にするメリットがあります。すぐに変えることはできなくても、少しずつ取り入れてみてはいかがでしょうか。

そのほかには、定期的に椅子から立ちあがってストレッチをしたり、校内点検を兼ねた散歩に行ってみたりしてください。血流や代謝が改善されるほか、周りの景色が変わることで気分転換になり、心身のリフレッシュにつながります。忙しいときほど無理をせず、頑張ってください。



編集後記

新年を迎えてから、あっという間に1月も終わりに近づいています。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症といった感染症が猛威を振るっており、体調を崩された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。厚生労働省のホームページに感染症情報が掲載されているのはご存じですか？インフルエンザや新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の予防には、「手洗い」「マスクの着用を含む咳エチケット」「換気」などが有効だとあります。感染対策をして、この冬を元気に乗り切りましょう。(Y)



うがいをしよう



マスクをしよう



換気をしよう